

普及項目	増殖
漁業種類等	素潜り
対象魚類	トサカノリ
対象海域	天草西海

天草市五和地区におけるトサカノリ増殖への取組み

天草広域本部水産課・吉村 直晃

【背景・目的】

天草市五和地区では、天草漁協五和支所裸潜組合（以下、「裸潜組合」という。）によるトサカノリ漁が盛んである。天草管内のトサカノリ産地は、当地区のほか、苓北、牛深及び久玉地区が知られている。これらの中で、当地区は、全体漁獲量の約 50%を占めること、また、平均単価が最も高いことから、最重要産地であるといえる。

そこで、当水産課は、当地区におけるトサカノリ漁獲量を安定化させるため、裸潜組合が行うスポアバッグ投入の効果取りまとめへの協力及び情報提供等により、資源管理を推進することを目的とした。

【普及の内容・特徴】

1 裸潜組合によるスポアバッグの作成・投入及び効果調査

(1) スポアバッグの作成・投入

平成 30 年（2018 年）7 月 26 日にトサカノリを 265.8 kg 採取し、スポアバッグの作成と投入が行われた（写真 1）。当水産課は、成熟度確認と雌雄選別を指導した。

(2) 効果調査

スポアバッグ投入の効果を把握するため、同年 12 月 20 日に、潜水枠取りによる芽数調査が実施された（写真 2）。当水産課は、調査場所を決定する際の参考資料として、上記（1）の投入場所の図面化、記録用紙の作成について協力した。

2 漁模様の予測と結果に基づく指導

当水産課で芽数調査結果を取りまとめたところ、芽数の少ない漁場が確認され（図 1）、平成 29 年（2017 年）以降、多くの漁場で減少傾向にあることが判明した（図 2）。

このことから、平成 31 年（2019 年）漁期の不漁を予測し、平成 31 年（2019 年）1 月に開催された裸潜組合総会で情報提供した。その際、単価が高い 3 月から 5 月を中心に漁獲し、収入を確保するよう指導した。

また、これ以上の芽数減少を食い止めるため、単価下落期の操業日数削減、人口採苗したコンクリートブロック投入による親株増加の取組みを提案した。

【成果・活用】

平成 31 年（2019 年）漁期は、予想どおり不漁でスタートし、裸潜組合は自主的に休漁した。このことにより、漁獲量は平年を下回ったが（図 3）、5 月以降の高値時期に漁を集中したことにより水揚げ高は平年を上回り（図 4）、収入を確保できた。

本年 7 月に実施されたスポアバッグ投入の際には、昨年を上回る 471 kg のトサカノリを確保することができ、休漁の効果が表れた。また、新たにコンクリートブロックの投入が開始され、トサカノリの増殖と資源管理への意識が高まっている。

今後も、これらの取組みが維持・継続するよう助言し、その効果を漁業者自らが実感できるよう指導したい。



写真1 スポアバッグ投入 (H30. 7. 26)

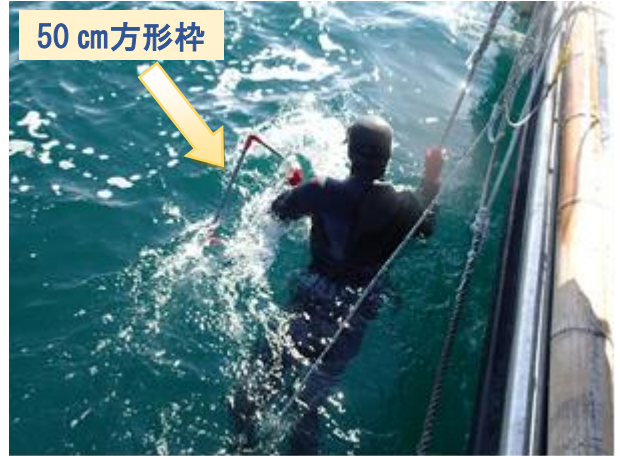


写真2 潜水枠取り調査 (H30. 12. 20)

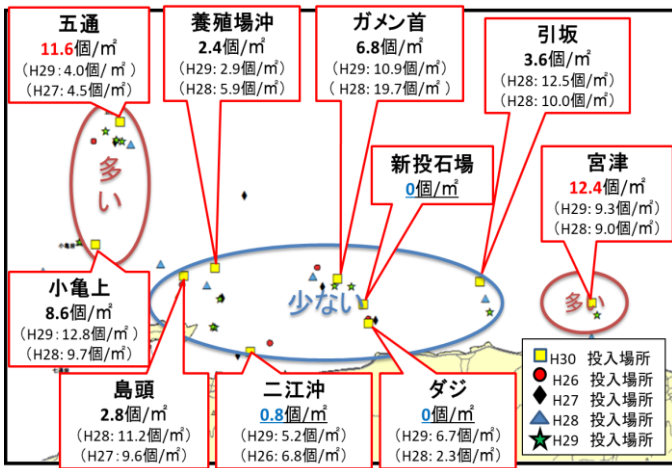


図1 芽数調査結果

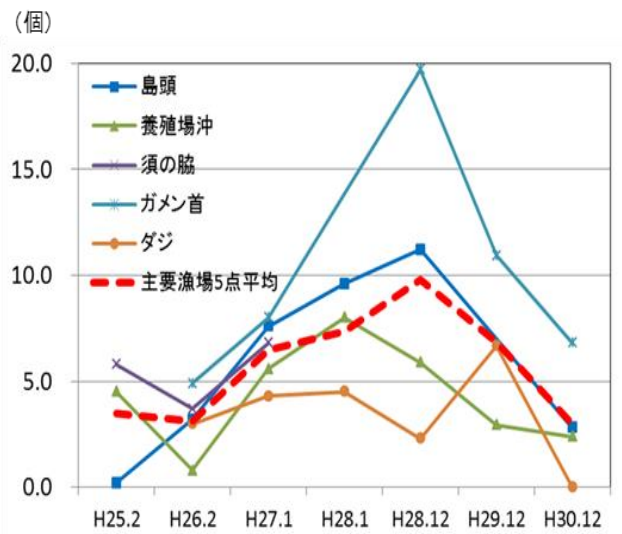


図2 主要漁場の芽数の推移

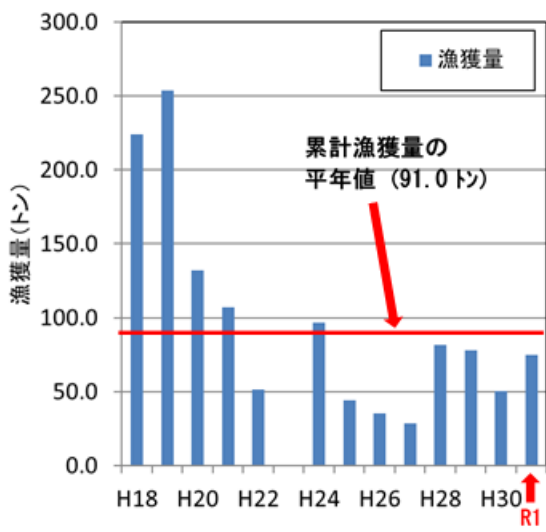


図3 漁獲量の推移

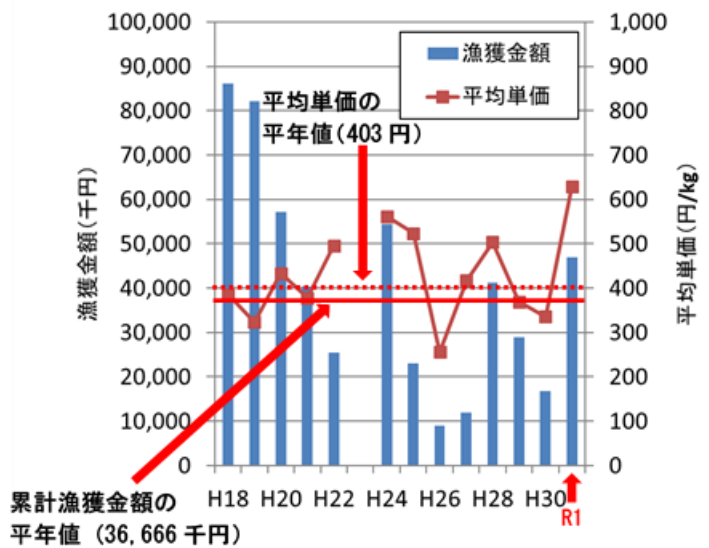


図4 水揚げ高及び平均単価の推移